

気候変動適応戦略イニシアチブ (ISACC)

# 気候変動適応研究推進プログラム (RECCA)

## 概要

気候変動予測の成果を都道府県あるいは市区町村などの地域規模で行われる気候変動適応策立案に科学的知見として提供するために必要となる研究開発を推進しています。 将来の気候変動影響を考慮した適応策の立案には科学的根拠となる気候変動予測情報が不可欠となりますが、現在の気候変動予測の空間解像度は地域規模の検討に使用するには粗いなどの課題も指摘されており、気候変動予測の時間的、空間的な分解能を向上させることや、予測に含まれる不確実性を低減することが必要です。また、全球規模の気候変動予測成果を利用する気候変動適応シミュレーションは、対象地域の社会的な実情を十分に考慮することによって、効果的な適応策立案に必要な科学的知見を政策決定者や利害関係者に提供できるものと期待されます。

## 研究課題一覧

### 研究領域

- 水:** 局所集中豪雨(ゲリラ豪雨)の発生、長期的な渇水、積雪量の減少、融雪時期の変化等、気候変動による水分野への影響とその適応策等に関する研究を行います。
- 都市:** 集中豪雨、異常高温、ヒートアイランド等、気候変動による都市への影響及びその適応策や、低炭素社会の実現に向けた研究を行います。
- 農林漁業:** 気候変動に伴う気象や海況の変化に対し、安定的な農業生産や水産資源確保を実現するための適応策や技術に関する研究を行います。

### 研究テーマ

- 先進的なダウンスケーリング手法の開発:** 全球規模の気候変動予測成果を地域規模の気候変動予測や影響評価の検討などに活用することを旨として、力学的ダウンスケーリングと統計的ダウンスケーリングによる複合的なダウンスケーリング手法や新規的かつ先進的なダウンスケーリング手法の研究開発を行います。
- データ同化技術の開発:** 地域規模における気候変動影響評価及び適応策の検討に科学的知見を提供するシミュレーションモデルに対し、その不確実性の低減を目指して、観測データを同化する技術の研究開発を行います。
- 気候変動適応シミュレーション技術の開発:** 地域規模で行われる気候変動影響評価・適応策立案を可能とする気候変動適応シミュレーション技術の研究開発を行います。

研究課題名  
研究代表者名 主管研究実施機関

 日本海沿岸域における温暖化に伴う積雪の変化予測と適応策のための先進的ダウンスケーリング手法の開発  
**木村 富士男** 海洋研究開発機構

 地球環境変動下における農業生産最適化支援システムの構築  
**二宮 正士** 東京大学

 気候変動下における四国の水資源政策決定支援システムの開発  
**那須 清吾** 高知工科大学

 流域圏にダウンスケールした気候変動シナリオと高知県の適応策  
**西森 基貴** 農業環境技術研究所

 フィードバックパラメタリゼーションを用いた詳細なダウンスケールモデルの開発と都市暑熱環境・集中豪雨適応策への応用  
**飯塚 悟** 名古屋大学

 北海道を対象とする総合的ダウンスケール手法の開発と適用  
**山田 朋人** 北海道大学

 気候変動に伴う水産資源・海況変動予測技術の革新と実用化  
**淡路 敏之** 海洋研究開発機構

 東北地域のヤマセと冬季モンスーンの先進的ダウンスケール研究  
**岩崎 俊樹** 東北大学

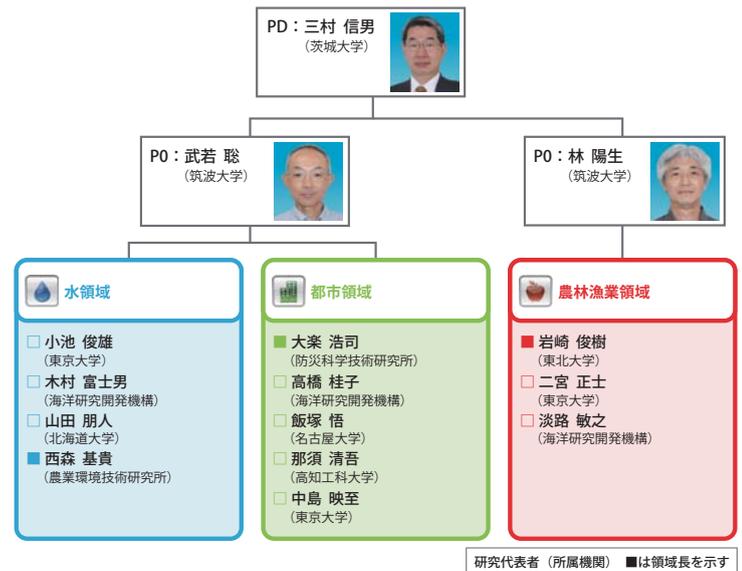
 気候変動に適応する河川・水資源地域管理システムの開発  
**小池 俊雄** 東京大学

 大気環境物質のためのシームレス同化システム構築とその応用  
**中島 映至** 東京大学

 高解像度気候変動シナリオを用いた大都市圏の風水害脆弱性評価に基づく適応に関する研究  
**大楽 浩司** 防災科学技術研究所

 都市・臨海・港湾域の統合グリーンインベーション  
**高橋 桂子** 海洋研究開発機構

## 実施体制図



研究代表者 (所属機関) ■は領域長を示す